

梁に覺敷無澤大膳とて者や押寄てり組の
盗人の大力の者とて義晃と捕へ抱く首と搔ふとせ
し時下より組むと等しく九寸五分の小脇差とて二刀
刺し弱ふ所を剣返し頭を搔ふと左右より盜賊數
多落合ひしと郎等共切て出て追拂ひけり父義守公
限りの術と喜ひ翌日代々家傳る貞宗の太刀と取
し此刀に某十六歳の時橋下峠より参りてとて其場
譲り得る太刀なり今度義晃傳へ初傳は等し
く此刀に傳ふといふと手はく渡りぬけり

義晃武者修行の事

義守義晃の相伴ひ山形へ歸城しぬいある其後
義晃の晝夜隙なく武藝の卒業の略しは後食とて
ある程なりし時出頭を輩叫けり越後の長
尾謙信公の世上にあらるる名將なりと理ふ幼少の
時より武者修行と心掛け日本國中の在る處より
通ふといふといふ又侍る人なりとて其時
下より名を知りし程の大將は悪なる人一人なり相